

留学生・巡り合った現地の恩人

留学生として外国に住み始めてみると、最初はアクシデントの連続です。何しろ言葉もろくにできないのに住民登録、住居探しとその契約、学校の入学手続きと、現地人でも簡単ではない書類と格闘する行事が、めじろ押しですから。

私はいきなり、ハイデルベルク市役所の住民登録でつまずきました。東京のドイツ大使館で出発前日にギリギリセーフで下りたビザ、間に合ってよかった、神様どうもありがと、なんて舞い上がったものですが、飛行機内でよく見ると、1999年5月24日から1999年5月23日まで有効なんて書いてあるではありませんか！

誰が見ても明らかに大使館員



オーボエ奏者 渡辺 克也の

ベルリン音楽旅行

の書き間違いでしかないですから、1992年までと修正すればよいだけの話なのですが、そこは市役所のお役人。東京のドイツ大使館と郵送で確認作業をするからといって、1年有効だったはずのビザに無効のハンコを押され、1カ月だけ有効の仮ビザをあてがわれました。

1カ月有効の仮ビザしか持っていないドイツ語も不自由な外国人に家を貸してくれる奇特な大家さんはいませんし、日本から送金してもらう銀行口座も作れません。こんな珍道中も今でこそ笑い話ですが、その時は彼そをかきましたよ。

オーボエのリーバーマン先生が、途方に暮れる私を、歩行者天国になっているハイデルベルク中央通りに連れていってくれました。日本軽食屋の主人に私を紹介すると、「えっ、あなたオーボエ吹いてんの？一緒にいるのはまさかりーバーマン？」と驚いた声が店の中から上がりました。この日本人男性客が、その後私のドイツ生活が軌道に乗るまで面倒を見てくれた、ハイデルベルク在住の藤島淳一さんです。

日本の貿易会社のサラリーマン、東ドイツのオーケストラオーボエ奏者から転身されて、こだわりドイツ旅行リムジンサーブス「フジシマツアー」として、ドイツ内外を縦横無尽に走り回っておいでです。私も1度だけ見学させて頂きましたが、豊富な知識と人間的バランス感

覚、熱血漢、ドイツという国への愛に裏打ちされた、素晴らしいお仕事をされています。決して多くない現地在住日本人、しかも同じオーボエ奏者、驚くべき確率で藤島さんに出会い、何日か居候までさせて頂きました。

留学経験のある人には皆、現地で散々助けて頂き一生足を向けて寝られない恩人が、必ずいます。

(藤島さんのHPは <http://fujishima1952.com>)

◇ 〈わたなべ・かつや〉1966年生まれ。東京芸大卒。91年、ドイツに渡り、ベルリン・ドイツ・オペラ歌劇場管弦楽団の首席奏者などを歴任。現在はソリスツ・ヨーロッパアンズ・ルクセンブルクの首席奏者として活躍している。

(月1回掲載)